



作文・詩

今回の児童・生徒のコーナーでは、日吉小のお友達のお作品を紹介します。



2年  
ますじま かよ子

人ぎようげき

きようは、人ぎようげきだ  
みんな すわって まっている  
友だちのおから あせが ながれている  
いよいよ はじまりだ  
音がくに あわせて ごあいさつ  
きつねの つねくんたち せいぞろい  
まよ中の カーニバルの はじまりだ  
たまごが「ボン」と出て フライパンと  
あくしゆする  
おいしい 目玉やきが とび出した  
玉ねぎ、にんじん、じゃがいもと  
にたり やいたり 大いそがし  
おなべの ふたも「パカパカ」おどっている  
おいしい カレーの でき上がり  
てるてるぼうずの おぼけも せいぞろい  
おなかいっぱい たべて たのしそう

くろこの おにいさん  
つぎの じゆんびで 大いそがし



1年  
おおき やすし

かみついたいぬ

ゆうがた さんぽに いったら  
いぬが かみついて きました  
いたくて びつくり しました  
すぐに おかあさんと  
びよういんに いきました  
はしようふうの ちゆうしやを  
してもらいました。



3年  
小川 勝枝

秋

リンリンリン  
リンリンリン  
ココロココロ  
ココロココロ  
どこからか、虫の声が聞こえてくる。  
スズムシや、コオロギ。  
木の葉の色が変わる。  
赤や黄。  
うすい色や、あざやかな色。

すすきの白いほ。  
むらさきのりんどう。  
黄色いおみなえし。

実もなる。  
どんぐりや、くり。  
あけびや、からすうり。

秋は、あつくもなければ、さむくもない。  
さわやかなきせつだ。  
やがて、さむくなり、風がふくと、  
木の葉はちり、木の実はおちてしまう。  
ちよっぴりさみしくなる。



4年  
布施 睦

空はふしぎ

空には、  
まるでまほう使いがいるみたいだな。  
だって、  
朝、昼間、夕方、夜と、  
晴れた日、くもりの日、雨の日、  
水色や、白、赤、だいたい、黒、はい色：  
数えきれないほど、  
色があるんだな。  
こんなに、  
色をぬりかえたりできるのは、  
まほう使いしかいないな。  
大きなはけで、  
だれにもわからないうちに、  
「そーっ。」

と、すばやくぬっているんだな。



5年  
関口 綾子

家族っていいな

家族っていいな。  
いつでも私の心の支えになってくれる。  
なにかとつてもあったかい感じがする。  
父、母、祖父、祖母、そして二人の姉。  
六人もの家族に恵まれ、私は幸せだ。  
私のことをよくわかってくれる。  
おとうさんとおかあさん。  
とても心配してくれる。  
おじいさんとおばあさん  
時にはけんかもするけれどやさしい  
お姉さん  
みんな私の大好きな人たち。  
いつまでもいっしょにいて、  
私を支えてほしい。



6年  
大木 真也

黙とう

「黙とうして下さい」  
給食委員会の人が言った。  
ぼくは、目をつぶった。  
「しーん。」